

探花会（松竹梅・新春初詣）

第50回探花会（第50記念回）

行程 谷中七福神・翠鳳（食事）

平成26年1月12日（日）

| | | | | | | |
|----------|----|-------|----|-------|----|-------|
| 参加者（敬称略） | 1 | 今井須賀子 | 2 | 奥村 次雄 | 3 | 川瀬 力 |
| | 4 | 岸和田 徹 | 5 | 柴田 展男 | 6 | 柴田 圭子 |
| | 7 | 下田 道子 | 8 | 白石 博 | 9 | 高橋美代子 |
| | 10 | 田山 栄子 | 11 | 土谷 邦子 | 12 | 寺嶋 隆 |
| | 13 | 寺嶋 美佐 | 14 | 新納 桂 | 15 | 西川 峰雄 |
| | 16 | 福井 政二 | 17 | 藤山 順子 | 18 | 古澤富美子 |
| | 19 | 古澤 昌弘 | 20 | 堀内 浩 | 21 | 前川 一郎 |
| | 22 | 村田 洋子 | 23 | 森野紀代子 | 24 | 安田 忠子 |
| | 25 | 山口 幸長 | 26 | 山口 正子 | 27 | 山田 正 |

今回は第50記念回で、参加できなくなった会員も合わせると38名、参加者だけでも27名という数字が出てきました。

お陰様をもちまして平成20年2月に第1回を開催して以来、26年1月で第50回を迎えることができました。

ひとえに会員各位のご尽力を賜り大変光栄に思っています。

内容区分から見ると初詣と紅葉に参加者が多い傾向にあります。

当初は、企画するものの、参加者が主催者1名ということもしばしばあった訳ですが、回を重ねるごとに内容の理解もありその数は徐々に増えてきました。

1泊2日でのものは、伊豆大島に2回、浜松花博覧会と奥日光それぞれ1回の計4回。

中止にしたのは東北大震災発生後まもない時期であったのと、もう1回はテレビで翌日はかなりの荒れ模様との予報のため前日のうちに開催中止を連絡した計2回でした。この2回はいずれも5大ザクラのひとつ北本市の蒲ザクラの回でした。2回目は予報に反し当日は快晴で3名が急遽参加しましたので、実質中止は東北大震災を思い返っての1回だけです。

開催の日は不思議なくらい殆んど雨に遭うことなく進めることができました。

1泊2日で開催のものはどうも1日は雨に降られましたが、なかでも印象深いのは、伊豆大島へのものです。伊豆大島はツバキが有名で、都立の大島公園では相当数の品種のツバキを見ることができるので複数回企画しましたが、朝8時頃竹芝棧橋発の高速艇は、予約の関係で私1名と他の参加者の方とは別艇となりました。私は段取り等の関係で先艇で出発しましたが、途中千葉館山港を出た辺りから外海で時化が激しくなり竹芝棧橋に引き返すこととなりました。参加者の乗った後艇は時化てはいて遅れたものの何とか大島岡田港に到着し、予定のコースに組み入れることができました。

他方、竹芝棧橋に戻った先艇の私は翌日の段取りもあり、何としても大島に行かねばならないので、夜間発翌朝 6 時頃着の大型客船で追いかけることにしましたが、余りに時間があ
り過ぎるので、都立芝離宮・浜離宮恩賜庭園、東京タワー等を見学して時間を繋ぎました。
浜離宮庭園ではウメ、ナノハナ等春の息吹きを充分吸収することができました。

また、随分久しぶりの東京タワーでは、水族館で海水魚の遊泳するところを見ましたが、
魚の大きさ、多さに圧倒されました。余り宣伝されていないのですが、こんなところに水族
館があったのかということ自体驚きました。

ともあれ、翌朝岡田港近くの大正時代の面影が漂う民宿で合流後、ルートに乗っかりまし
た。

因みに、大島では、以前の会社で山田会長の部下であった方がご夫婦共々東京から移り住
まわれて陶芸教室等主宰されていて、当日は我々のために食事や陶芸でご心配をお掛けする
ことになったのですが、その後、先生である奥様の突然の訃報に接することになりましたの
は非常に残念なことでした。参加者全員で作り、先生の釉薬掛けのうえ送付されてきた陶芸
品が名残りのものとなりました。

隅田川七福神ではたまたま女性 1 名、男性 6 名となり、女性の弁財天とその他の福神と丁
度同数で行動したこともありました。

また、奥日光へは台風の際中に遭遇しました。泊まった民宿は表から見ると普通の民家か
と思われるほど、入口から中まで行く通路は生活の匂いを窺い知るところで、2 階の部屋に
とりあえず集合しました。宿代が宿代だけに止むを得ないのですが、この部屋の畳には若干
勾配がついていて、夜寝るのにいかななものかを感じる状況にありました。翌日は天気も回
復し湯滝から散策道に戻ってきました。

このように紆余曲折のある探花会もやっと軌道に乗ってきたのかなあと考える昨今です。

そのような中で、第 50 回探花会は江戸最古の谷中七福神のコースを散策しました。

通常は駒込の東覚寺から青雲寺に向かいますが、今回は西日暮里の青雲寺から富士見坂を
経て電車で田端の東覚寺に行き、その後また電車で日暮里の天王寺へと歩を進めました。

谷中七福神

田端駅に程近い東覚寺(北区)から、谷中・根津・千駄木(荒川区)を併せて「谷根千
(やねせん)」と称する地域を通り、上野(台東区)までに跨る、江戸で最も古い歴史をもつ
七福神。

谷中は上野と本郷の二つの台地に挟まれた谷間に位置していることから名付けられたとい
う。かつて江戸野菜**ショウガ**の名産地であった。

西日暮里駅を降りた道路の反対側の坂の手前にレトロな「ひぐらし坂」の案内銘板が
ありました。

青雲寺 (恵比寿 正直)



商売繁盛・漁業・笑顔愛嬌の神
臨濟宗、浄居山青雲寺
狩衣に風折烏帽子を冠って、右肩には釣竿、左の小脇には鯛を抱えている。
滝沢馬琴の筆塚・硯塚がある。「花見寺」と称した。

修性院 (布袋尊 大量)

富貴繁栄、人格形成、福の神
日蓮宗、運啓山修性院
江戸時代中期頃には、この辺り一帯は「ひぐらしの里」と呼ばれ、ここ修性院の布袋は「ひぐらしの布袋」といわれた。
大袋を背負って、何でも構わずに施しを受けて袋に入れている。
徳川将軍が狩猟の際御善所とした。
江戸時代後期の文化・文政時代の頃から青雲寺と同様「花見寺」と称した。
宝暦6年(1756年)庭園造りの名人岡扇計により作庭された。
庭内にはシダレザクラ他が見られる。

4 月にはサクラ他の花木類が咲き誇り賑やかさを感じる季節を迎えることでしょう。

富士見坂



花見坂、妙隆寺坂ともいう。
上野から王子まで続く小高い台地上にある坂で、富士山を望むことのできる名所であったが、
現在では、左側は建物に隠れ全景は見渡せない。
今日はやや薄雲があり富士山を望むことはできませんでした。

東覚寺 (福祿寿 人望)

富貴繁栄・長寿、人望の神
白龍山寿命院東覚寺
赤紙仁王尊があり、当時の江戸市中に流行していた疫病を鎮めるため建立されたもの。

田端駅から歩くこと 10 分程のところにある東覚寺の入口脇にある金剛力士立像は参詣客が赤い紙を貼ることから赤紙仁王と呼ばれるようになったそうです。

田端駅から電車で日暮里駅に行き直ぐの天王寺に向かいました。

駅で降り、坂道周辺の紅葉が美しかったので「紅葉坂」と命名された坂を上ると天王寺です。

夕やけどだんだん

夕焼けや谷中銀座商店街を望める段数36段の階段で有名である。

時間がおしていたこともあり、夕やけどだんだんは紙上での説明に留めました。
この階段は名称を公募により決めたそうです。

谷中銀座

散策に訪れる観光客も多い商店街で、下町の風情が感じられる。
惣菜や菓子店など約60店舗が並んでいる。

ここも時間の関係で省略しましたが、実は覗いて欲しいところがありました。
夕やけどだんだんを下りて少しの所に、以前肉屋で現在はコロケ等の惣菜屋をやっていて、今も「**近江肉牛協會員**」の標札を掲げている店があります。

天王寺 (毘沙門天 威光)



出世、勇気の神

頭には鳥形の冠を、身体に甲冑をつけ、右手に宝棒、左手に塔を持っている。
宝棒は悪霊を退散させる。塔は宝蔵を示している。



元禄3年に寄進された露座大仏像がある。

現在の宝くじに当たる富籤で、江戸三富の興行を行った寺のひとつとして有名。

江戸では谷中感応寺・目黒不動・湯島天神を三富と称した。

以前谷中感応寺といわれその後天台宗に改宗した護国山天王寺で、現在は少し近代的な造りになっている門を潜ると左手に「天王寺大仏」が鎮座しています。

この大仏は釈迦如来坐像で、立像では釈迦の身長に因んで1丈6尺に造るが、坐像は2分の1の8尺に造るのが通例とのことです。下から見上げるとかなりの大きさです。



境内にはマツが植えられていて丁度この季節「**雪吊り**」の点景を見ることができます。以下のうちの北部式といわれる景観的雪吊りです。

「雪吊り」には「兼六園式」「南部式」「北部式」といった3種類程の形式があります。

「**兼六園式**」は、「ブチ」という縄の先端部のすそ周りを、北部式のように「バチ」という竹の骨組みをせず、直接木の枝に荒縄で吊って枝の折れるのを防ぐ実用的な吊り込み方で、「帆柱」という支柱の先端は「飾りいぼ結び」を左右と先端に施した形式のものです。

「**南部式**」は、ブチは竹の骨組み(バチ)の先端に棕櫚縄を周して、それに吊り縄を結びつけます。また、帆柱は「バレン」といわれる、細めの吊り縄を編みこんだ装飾がされ、景観

的な雪吊りです。

「北部式」は、バチに割り竹を周し、これに吊り縄を結びつけたものです。帆柱の先端は藁や菰を編み上げて作った「ワラボッチ」を取り付けたものでこれも景観的な装飾雪吊りです。

ハボタンやフクジュソウを雪から覆うような装飾の「ワラボッチ」が数ヶ所に施こされていました。



また、藁を編んで黒の棕櫚縄で結び見切りとした中に松葉が敷いてありましたが、「敷き松葉」といって以前はよく装飾として庭園にも用いたもので、余談になりますが、私が就職し始めた頃には押し詰まった年末ギリギリに庭園に敷きに行ったものです。これが終わると正月が目前に迫ったことを知らされる光景でした。

そこからすぐの谷中霊園の中に五重塔の跡が窺える箇所があります。

谷中五重塔跡



昭和32年7月焼失した五重塔の跡。

幸田露伴作の小説「五重の塔」(明治25年刊行)のモデルになった。

のっそり十兵衛という大工が、親方源太と争って谷中感応寺の塔を建立した技倆と苦心とを描写したもの。

礎石が東京都の史跡に指定されている。

五重塔は、地・水・火・風・空の五大にかたどって五層に造った塔をいう。

寛永21年(1644年)に建立された最初の塔は明和9年(1772年)に目黒の行人坂大火により焼失しました。それから19年後の寛政3年(1791年)近江国高島郡の棟梁八田清兵衛ら48名によって再建された関東一の高さの塔で、小説五重の塔のモデルとなりましたが、昭和32年7月6日の放火により焼失しました。花崗岩の礎石、束石や地覆石は現存し、天王寺五重塔跡として平成4年に東京都指定史跡に指定されています。

長安寺 (寿老人 長寿)

富貴、長命、与宝、病の平癒の神

白髪長寿の老人の姿をしている。

長寿を書いた巻物をつけた杖と、1500年生きるといわれる黒い鹿を連れている。

狩野芳崖の墓がある。

入口の門には寺名の表示がなく、案内銘板を見て長安寺だと分かるような寺です。

入って直ぐのところを左手に折れると墓域に狩野芳崖(明治画壇の革新に功績のあった画家)の墓地がありました。

長安寺から谷中霊園の一角を横切り霊園の中央通りに出て小休止しました。ここでも南部式雪吊りが見られました。

本日はいつになく大人数で、長安寺から遅れてくる人が数名いて携帯電話に連絡があり初めて気付くなどで、携帯電話の有難さを痛感した一こまがありました。あわてて細い路地を戻り引率して、先達に追いつき、休憩中の先達群のところに行くと、今度は墓地の徳川慶喜墓地まで脚をのばした人もいるなど少々行動がバラバラになり戸惑い気味でした。

主宰側としては昼食場所での予約時間を見越しての行動で、はやる気持ちを抑えつつ、気を取り戻して次に向かいました。

今日は寄りませんでしたでしたが、直ぐのところに東京都谷中霊園管理事務所があり毎年入口脇に時季の縁起実物(みもの)植物の鉢が並べられています。

センリョウ科の**センリョウ**(千両)、ヤブコウジ科の**ヤブコウジ**(藪柑子 = 異称 十両)、**カラタチバナ**(唐橘 = 異称 百両)、**マンリョウ**(万両)の4種です。

因みに川口市の安行花と緑の振興センターにはこのほかにアカネ科の**アルドオシ**(虎刺 = 有通し〔常に金がある意〕)も植栽されています。



途中、古い建屋の下谷風俗資料館の酒屋吉田屋本店に立ち寄りしましたが、そこでは写真等かつての下谷近辺の情景に接することができました。そこから護国院までの道中で、今回は見ませんでしたでしたが、ビルの前面に下垂し、風に靡く**フユツタ**(アイビー)を観ることができます。

護国院 (大黒天 富財)



金運、子孫繁栄、財宝の神

着物は狩衣姿で、円形の大黒帽子を冠り、肩に金袋、右手に打ち出の小槌を持っている。

大黒天画像は三代将軍徳川家光から送られたものと伝えられている。

境内の掲示板に谷中七福神が毛筆で認められていました。

上野動物園の縁を通り動物を見ながら、締めで7番目の不忍池弁財天に向かいました。

不忍池

上野・本郷の両台地間の窪地にあって瀉湖となったもの。周囲2km。

南側は蓮池、北側は鶺鴒の池、西側はボート池という名称がついている。

蓮池は以前は池の半分以下であった**ハス**が繁茂し池全体を覆っている。

弁天堂 (弁財天 愛嬌)

不忍池内の島にある。

言葉(弁)の神で、芸(音楽・芸術・学術等)の道を助ける。

唐服を着て、左手に琵琶を持ち、右手で弾いている。

アシ(葦=ヨシ)や枯れたハス(蓮)の生い茂った不忍池の天龍橋を弁財天から食事場所へと向かう途中の階段を上り、西郷隆盛像のある場所へと移動しました。

西郷隆盛銅像

明治31年(1898年)に完成の像。

修学旅行で必ず通り見た西郷像。

以前はこの場所にはなくもう少し階段下にあったと思うのだが記憶は曖昧模糊としてもう一つ定かではありません。

ここで、修学旅行の如く記念撮影をしていよいよ遅い昼食場所へと向かいました。

新装されたビルのエレベーターを降り上野駅構内を潜り日比谷線脇のエレベーターを上がると直ぐのところに、山田会長から紹介された中国料理店があります。

翠鳳(中国料理)



日比谷線上野駅に隣接至近にある中国料亭。

階段を降り、チャイナドレスを眺めながら指定の部屋でリーズナブルなフカヒレ料理を酒盃とともに楽しみました。

探花会第50回記念回ということもあり県人会から商品券を賜りました。

1月25日開催の埼玉滋賀県人会新年会・懇親会の席では、逆に夏の暑い盛りに参加され草花当てクイズの1等賞と、50回を通じ参加回数の多かった会員賞数名、創設時尽力していただいた方への特別賞等を用意して感謝の気持ちを表すこととしています。

松竹梅

いずれも寒に堪えるので、**歳寒の三友** という。

めでたいものとして慶事に用いる。

今回のテーマ松竹梅・新春初詣はこれをもって完了としました。

(探花会主宰 新納 桂 記)

以上